

関係者各位

株式会社マルシンコマース
代表取締役 水柿敏雄

次亜塩素酸水の除菌力・安全性に関する正確な情報（お知らせ）

今般、NHKニュースで次亜塩素酸水の効能について消極的な報道がなされたため、心配されている方も多いと思いますので、正確な知識・情報をお知らせします。

(1) 次亜塩素酸水の商品は、除菌力（殺菌力）と安全性試験のエビデンスを必ず確認すること

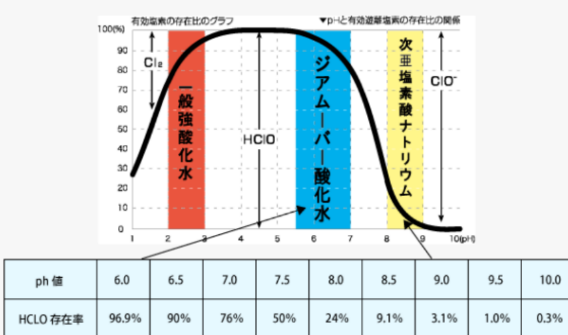
新型コロナの影響で「次亜塩素酸水の良さ」が認知されるに伴い、通販サイトや量販店等では評価できない商品が多く出回っています。除菌力と試験濃度・安全性のエビデンスを必ず確認することが重要です。確認できないものは使わないでください。

当社が推奨するジアムバー酸化水（弱酸性次亜塩素酸水）は、日本食品分析センターにおいて十分な殺菌力と安全性が検証された商品です。安全性は200PPMの濃度で、除菌力は50PPMの濃度で試験。アルコールでは殺菌が難しいノロウイルスも15秒で不活性化する結果となっています。**（試験結果は別紙を参照ください）**

(2) 次亜塩素酸水のpHは弱酸性域であることが必要

塩素系消毒剤の塩素濃度（PPM）は、次亜塩素酸（HClO）または次亜塩素酸イオンの濃度です。しかし、除菌力を比較すると次亜塩素酸（HClO）は次亜塩素酸イオンの80倍の除菌力があります。そして、次亜塩素酸（HClO）構成比が最大になるのが弱酸性・中性領域なのです。また、次亜塩素酸ナトリウムはアルカリで残留性が高く希釈水でも手指消毒に使えません。極端に酸性に傾くと塩素ガスを発生するので危険です。従って、弱酸性域の次亜塩素酸水が最適なのです（下図参照）。

なお、次亜塩素酸水を弱酸性に制御することは大変難しい技術です。当社が推奨するジアムバー酸化水は長年の開発を通じてコンピュータ制御し、これを実現しています。



HClO (次亜塩素酸) は人体内でも作られている殺菌成分のひとつで、ClO⁻ (次亜塩素酸イオン) に比べ殺菌力は80倍あり、即効性があるため残留しにくいです。

pH 値によって有効塩素内の存在比率が大きく変わってきます。

HClO が多いほど殺菌力は高くなります。

(3) 弱酸性次亜塩素酸水は食品添加物。野菜等の除菌洗浄に使われている安全なもの

元来、食べても問題のない食品添加物ですが、除菌力や安全性が優れているので、手指消毒にも使えないかというので拡大している現状があります。従って、除菌力と試験濃度・安全性のエビデンスを必ず確認できる商品を利用することが重要になるのです。

以上

ジアムーバー酸化水の安全性・除菌力の試験結果

検査機関：日本食品分析センター

	試験内容		報告番号	試験結果
除菌力	①一般細菌 (殺菌効果試験)	カンピロバクター、大腸菌(O157:H7)、 緑膿菌、黄色ブドウ球菌、M RSA、	第208101182-001号	15秒後検出せず
		枯草菌(芽胞)、黒こうじカビ		3分後検出せず
		白癬菌		1分後検出せず
	②ノロウイルス試験(代替ウイルス)	第208021303-002号	15秒後検出せず	
	③レジオネラ試験	第208021303-001号	15秒後検出せず	
④インフルエンザウイルスの不活化試験	第208111397-001号	15秒で検出せず		
安全性	⑤ウサギを用いた眼刺激性試験	第508070119-003号	刺激反応なし	
	⑥細菌を用いる復帰突然変異試験	第508070119-004号	突然変異誘起性は陰性	
	⑦ラットを用いた急性経口毒性試験	第508070119-005号	異常なし	
	⑧モルモットを用いたMaximization法 による皮膚感作性試験	第508070119-006号	皮膚反応なし	
	⑨ウサギを用いた皮膚一次刺激性試験	第508100522-002号	刺激反応なし	

(参考) ジアムーバー酸化水について

- ・ 注文いただいてから生成しています。
明記されている製造年月日から6か月以内に使用してください。
- ・ 出荷時にpH(弱酸性)を確認しています。(pH5.8~6.3)
- ・ 手指消毒用ボトルは遮光性の材質のものを使ってください。
※手指について安全性は確認出来ておりますが、薬事法上の制限においてご利用者様のご判断でお使いになって頂く事となっております。